

「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議第3回会合 閉会セッションにおける岸田内閣総理大臣スピーチ

皆様、この度は世界各国から国際賢人会議に御出席いただきありがとうございます。

先ほど委員の皆様から、今回の会議の概要、「核兵器のない世界」の実現の為に今後乗り越えていかねばならない根本的な課題を掘り下げて議論した、と伺いました。

「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議は、ちょうど1年前、広島での第1回会合をもってキックオフしました。今回の開催地であるここ長崎は、78年前、一発の原子爆弾によって焦土と化し、7万ともいわれる人々の命が奪われた場所です。永遠の平和が祈られ続けられる場所でもあります。

この長崎において、核兵器国と非核兵器国の双方から、それぞれの国の立場を超えて、自由闊達な議論を通じて「長崎を最後の被爆地に」という、我々人類共通の決意を新たにします。国際賢人会議の意義は、まさにここに 있습니다。そうした観点から、今回、委員の皆様が、被爆者や市民社会の皆様と対話するなど、被爆の実相について理解を深めていただいた上で、核軍縮に向けた根本的な課題への議論を行っていただけたことは、とても有意義であったと考えています。

核軍縮を巡る国際社会の分断が深まり、我々の前にそびえ立つ壁は一層険しいものとなっています。乗り越えるべき根本的な課題は未だ山積していると言わざるを得ません。しかし、だからこそ、こうした課題について、ひるむことなく議論し、現実的かつ実践的な取組を進め、核軍縮に向けた国際社会の機運を高めていくことが何よりも求められています。

そのためには、世界中から強い政治的な意志を結集することが必要です。私は、「核兵器のない世界」に向けて引き続き、この国際賢人会議の叡智を得つつ、私自身が強いリーダーシップを発揮していく決意です。今回の国際賢人会議において多くの政治リーダーの皆様に関与いただきました。先程、外相時代に核軍縮に向けてともに取り組んだジョン・ケリー・米国・気候変動担当特使からも、力強いメッセージを頂けたことを心強く感じています。

平和への祈りの地、この長崎で行われたこの重要な会合をまた一つの大きな契機として、皆様とともに「核兵器のない世界」という人類の共通の理想に向けた具体的な道筋を考えていきたいと考えています。私は、今日ここにこうしてお集まりいただいている賢人の皆様の叡知と御協力に大きな期待を寄せています。

委員の皆様、政治リーダーの皆様、そして大石長崎県知事・鈴木長崎市長をはじめ関係者の皆様の御協力に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

(了)